

令和7年度 四日市市下水道事業の決算

令和7年度の四日市市下水道事業
の決算について、僕たち、
「こにゅうどうくん」と「スイスイ」
が分かりやすく説明するよ！



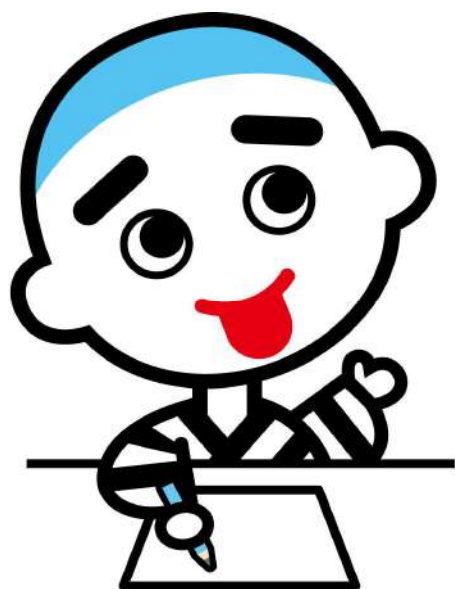
四日市市マスコットキャラクター 「こにゅうどうくん」



下水道マスコットキャラクター 「スイスイ」

四日市市上下水道局

はじめに



四日市市の下水道事業は、使用者のみなさまが納めている下水道使用料で、安定したサービスを継続的に提供するため、平成14年度から公営企業として運営しています。

公営企業の経理では、民間企業のように複式簿記を使った「企業会計方式」を採用することが義務付けられており、現金の増減のみを記帳する一般会計と異なり、1つの取引によって発生した価値の増加に伴う他の価値の減少の両面を記帳する経理方式をとっています。決算では、1年間の経営成績を表す「損益計算書」や年度末の財政状態を表す「貸借対照表」などの企業会計特有の書類があります。ただ、この書類は初めて見る人には少し難しい内容です。

そのため、使用者のみなさんに決算書に書かれていることをわかりやすくお伝えし、四日市市の下水道事業がどのような状況なのか少しでも知っていただけるよう本書を作成しました。

目 次

1. 決算ってなあに？	P1
2. 収入や支出ってどんなものがあるの？	P2
3. 家計簿にたとえると	P4
コラム① 「減価償却費」と「長期前受金戻入」ってなあに？	P6
コラム② 「補てん財源」ってなあに？	P8
4. 下水道事業の経営成績はどうなの？	P10
5. 利益はどのように使われるの？	P11
6. 借金はどれくらいあるの？	P12
7. 下水道事業の財産はどれくらいあるの？	P13
コラム③ 「引当金」ってなあに？	P15
8. 下水道事業の財政状態はどうなの？	P17
9. 他都市と比べてどうなの？	P20
付録① 【図解】損益計算書を読み解こう！	P23
付録② 【図解】貸借対照表を読み解こう！	P24
付録③ 【図解】キャッシュ・フロー計算書を読み解こう！	P25

1. 決算ってなぁに？

○ 決算って？

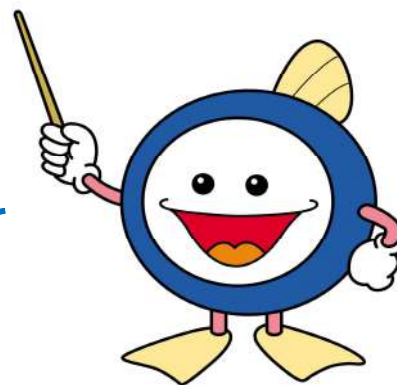


決算とは、1年間に入ってきたお金（収入）と出ていったお金（支出）を計算し、利益や損失をまとめた数字を「決算書」として確定させることです。

みんなで一緒に令和7年度の1年間、四日市市の下水道事業で使われたお金の出入りを見てみよう！

○ 令和7年度の決算はどうだったの？

さっそく、令和7年度の四日市市下水道事業を見てみよう。



単位：円（税込）

区 分	決 算 額	主なもの
収益的収入	15,891,610,347	下水道使用料、他会計負担金 など
収益的支出	14,488,260,291	人件費、維持管理費、減価償却費 など
資本的収入	8,945,685,317	建設事業に伴う企業債、国庫補助金 など
資本的支出	14,717,357,924	人件費、委託料、工事請負費、企業債償還 など



令和7年度の下水道事業の決算は、日々の経済活動に必要なお金（収益的収支）を見ると、約158億9千万円の収入に対して約144億9千万円の支出があったよ。

一方、施設を建設したり、借金を返済したりするお金（資本的収支）は約89億5千万円の収入に対して、約147億2千万円の支出があったよ。不足している約57億7千万円については、貯金を取り崩したりしてやりくりしたんだよ。

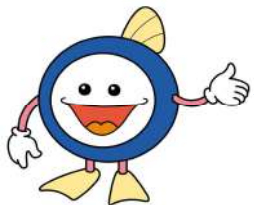
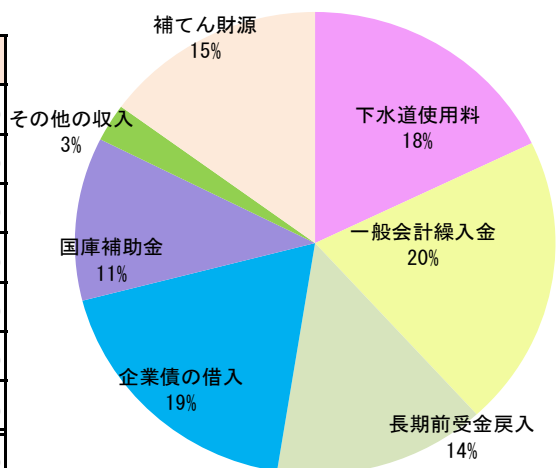
2. 収入や支出ってどんなものがあるの？

令和7年度1年間に、どんなお金（収入）が入ってきたか見てみましょう。

収入

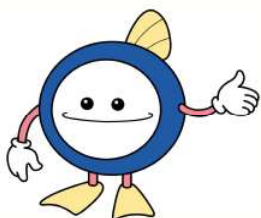
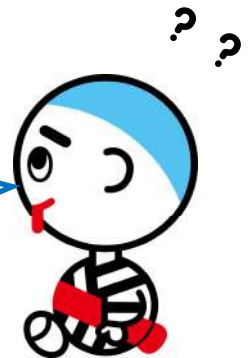
(税込)

内 容	金 額 (円)	割 合 (%)
下水道使用料	5,221,652,624	17.9%
一般会計繰入金	5,951,429,000	20.4%
長期前受金戻入	4,169,763,338	14.3%
企業債の借入	5,388,600,000	18.5%
国庫補助金	3,335,221,074	11.4%
その他の収入	770,629,628	2.6%
補てん財源	4,368,322,551	15.0%
合 計	29,205,618,215	100.0%



下水道事業は、みんなが支払っている「下水道使用料」で経営しているんだ！

あれ!? でも・・・下水道使用料は約20%しかないよ。それに、「下水道使用料」のほかにも色々な収入があるよね。「一般会計繰入金」や「長期前受金戻入」ってあるけど、これはなんなの？



そうなんだ!! よく気付いたね。

下水道は、みんなのお家から流れる「汚水」とまちを水害から守る「雨水」があるんだ。

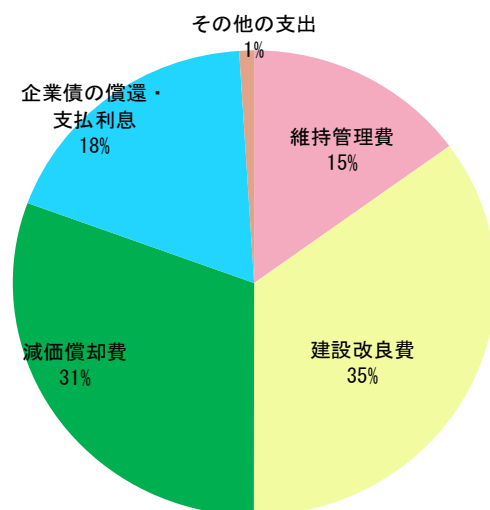
「汚水」にかかる費用は、使った人が支払うんだけど、「雨水」のための費用は、四日市市の「税金」で支払うのがルールなんだ。

それから「汚水」の費用のうち「下水道使用料」で賄いきれない部分について、四日市市からの「税金」でもって助けてもらっているんだ。この四日市市からもらう「税金」が「一般会計繰入金」なんだ。

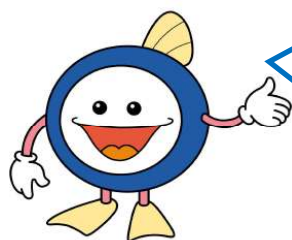
「長期前受金戻入」は少し難しいから、あとから説明するね。

次に令和7年度1年間、どんなことにお金を使っているか（支出）見てみましょう。

支出	(税込)	
内 容	金 額 (円)	割 合 (%)
維持管理費	4,374,024,664	15.0%
建設改良費	10,234,962,249	35.0%
減価償却費	8,923,267,273	30.6%
企業債の償還・支払利息	5,382,014,588	18.4%
その他の支出	291,349,441	1.0%
合 計	29,205,618,215	100.0%



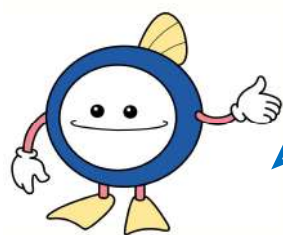
「維持管理費」や「建設改良費」ってあるけど・・・
これはなんなの？



「維持管理費」はみんなの家から出た汚れた水をきれいにする処理場や雨水を排水するポンプ場の電気代や施設の修繕などにかかった費用なんだ。
「建設改良費」は、下水道管やポンプ場・処理場施設などのハード面の建設にかかる費用なんだ。



「企業債の償還・支払利息」はどういうもののなの？
それに「減価償却費」ってなんなの？



「企業債の償還・支払利息」は、下水道事業の施設を造る時に国の機関などから借入したお金とその利息なんだ。
「減価償却費」については、さっき収入で出てきた「長期前受金戻入」と合わせて後で説明するね。



イメージしやすいように収入・支出を「こにゅうどう君の家の家計簿」に置き換えてみよう。

3. 家計簿にたとえると

令和7年度の収入・支出を1年間の家計簿に置き換えてみましょう。

収入

(税込)

内 容	金 額 (円)	割 合 (%)
給料 (下水道使用料)	4,781,733	17.9%
親からの援助金 (一般会計繰入金)	5,450,027	20.4%
帳簿上の収入 (長期前受金戻入)	3,818,465	14.3%
ローンの借入金 (企業債の借入)	4,934,615	18.5%
国からの援助金 (国庫補助金)	3,054,232	11.4%
その他の収入 (その他の収入)	705,705	2.6%
貯金の取り崩し (補てん財源)	4,000,295	15.0%
合 計	26,745,072	100.0%

支出

(税込)

内 容	金 額 (円)	割 合 (%)
生活費 (維持管理費)	4,005,517	15.0%
家の新築や改築・家財購入費 (建設改良費)	9,372,676	35.0%
家や家財の価値減少分 (減価償却費)	8,171,490	30.6%
ローンの返済 (企業債の償還・支払利息)	4,928,585	18.4%
その他の支出 (その他の支出)	266,804	1.0%
合 計	26,745,072	100.0%

※国税庁の令和6年度民間給与実態統計調査を参考（平均給与額 4,780千円）に各金額を1092分の1にしました。

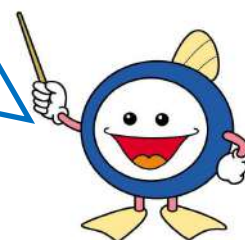


僕のお家の家計簿にすると少しいメージしやすくなるね。

「給料」で日々の「生活費」は賄えているけど、「家の新築や改築・家財購入費」や「ローンの返済」のお金までは賄えていないんだね。

本当は出ていく分のお金は、自分の「給料」でやりくりするのが理想なんだけど、「親からの援助」や「ローンの借入」、「貯金の取り崩し」に頼っているのが現状なんだよ。

これは、下水管を敷いたり、施設を造ったりするのに、たくさんのお金がかかることや雨水の処理にかかるお金は「親からの援助」や「国からの援助」でもって行っているからなんだよ。





それに「生活費」に対して、「家の新築や改築・家財購入費」や「ローンの返済」の方がすごく多いね。
なんでだろう？

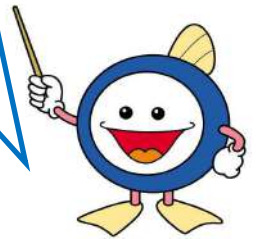
「家の新築や改築・家財購入費」が出ていくお金の約4割も占めているね。これは四日市市の下水道整備が整備の途中だからなんだよ。

四日市市では令和8年度末に市街化区域の污水管整備が完成できるように頑張っているよ。

また、みんなの命や財産を雨による災害から守るための施設の整備にも力を入れているんだよ。

それから、「ローンの返済」についてだけど、これは今まで下水道管を敷いたり、施設を建てたりした時に借りたお金を毎年返済しているものなんだけど、下水管や施設って一度建ててしまえば数十年に渡って使うことができるよね。それなのに建てた時のお金をその時の人たちだけで負担するのは不公平だよ。

完成した施設を使う僕たちも平等に負担するため、建てる時にお金を借りて、何十年もかけて返済することで、不公平にならないようにしているんだ。



コラム①

「減価償却費」と「長期前受金戻入」ってなァに？

さっきから、何度か出てきている「減価償却費」と「長期前受金戻入」ってどんなものなの？ スイスイ教えて！



Q1 減価償却費ってなァ〜に？



減価償却費とは、時間がたつことによる建物や設備などの資産の価値が減少した分の費用を計上するものだよ。

みんなの分かりやすいもので言うと、100万円で買った新車を5年後に売る時には、買った時の値段では売れなくて、経年して価値が落ちた分を差し引いた価格になるよね。

こういった資産の現在の価値を正確に把握するためにも、価値が減少した分を費用として計上する必要があるんだ。この手続きを「減価償却」と呼び、その手続きによって計上される費用を「減価償却費」と言うんだよ。



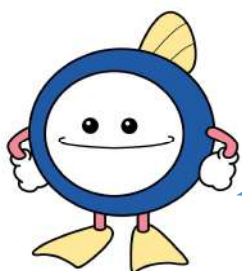
例えば、100万円で購入した車が1年後の価値が90万円になった場合、その1年間の減価償却費は価値が減少した10万円になるってことだね。

Q2 長期前受金戻入ってなァ〜に？



平成26年度の地方公営企業の会計基準の見直しに伴って、新たにできた収入の項目だよ。

固定資産の取得に伴う財源として受けた国庫補助金や一般会計からの負担金等について、「長期前受金」として負債に計上したうえで、毎年度、減価償却見合い分を収益化する現金を伴わない収入なんだよ。



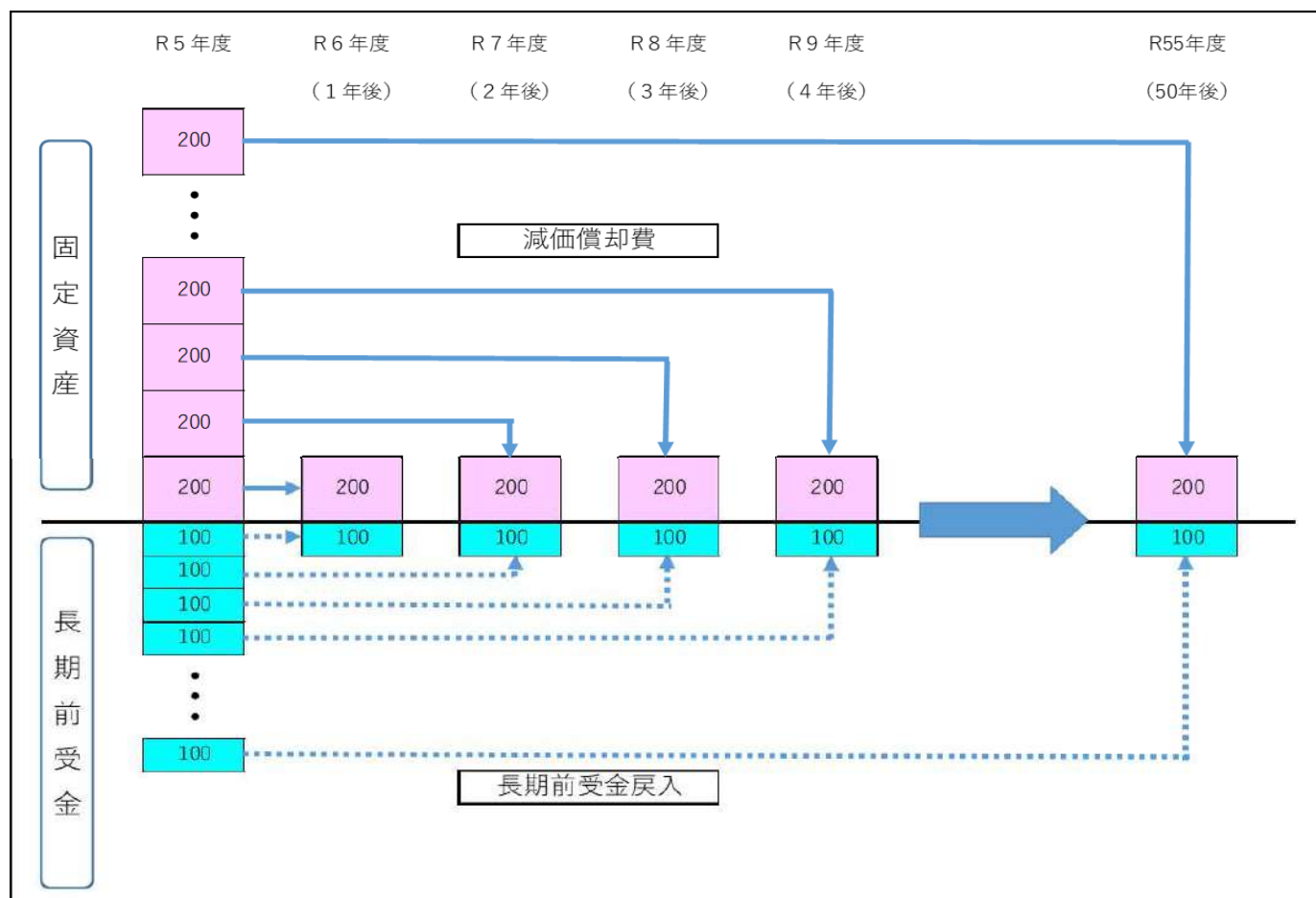
う〜ん、言葉で聞いてもよくわからないなァ？

そうだね。言葉で聞いてもイメージしにくいね。
じゃあ、具体的な例を挙げてイメージしてみよう。



減価償却費と長期前受金戻入のイメージを見てみよう！

令和4年度に国庫補助金5,000万円、自己資金5,000万円を財源に50年間使用できる施設（1億円）を建設した時の「減価償却費」及び「長期前受金戻入」のイメージ



この施設は50年間使えるから、毎年50分の1ずつこの施設の価値は減少していくから、その価値の減少分である減価償却費が毎年200万円発生し費用計上することになるよね。

一方、この施設の取得には国庫補助金を5,000万円貰っているから、この国庫補助金も施設の減価償却費に対応して、毎年50分の1の100万円ずつ収益が発生し収益化することになるんだ。

この経理処理に伴って発生する収益を「長期前受金戻入」と言うんだよ。

「補てん財源」ってなぁに？

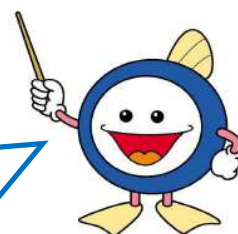
ねえ～、スイスイ。今まで出てきた言葉に「補てん財源」って言葉があったけど、これはなぁに？



Q1 収益的収支・資本的収支ってなぁ～に？

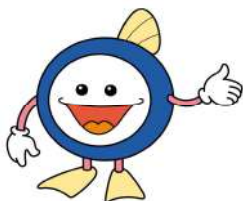
「補てん財源」を話す前に、まず企業会計予算の成り立ちを話さね。企業会計では、予算の編成は「収益的収支」と「資本的収支」の2本立てとなっているんだよ。

この2つの言葉の意味は次のとおりだよ。



収益的収支 … 公営企業の一事業年度の経済活動に発生した全ての収入とそれに対応する全ての支出

資本的収支 … 公営企業の将来の経済活動に備えて行う建設改良費及び建設改良に係る企業債償還金などの支出、並びにその財源となる収入



みんなが分かりやすいイメージで言うと、収益的収支は、「現在のために使うお金」で、資本的収支は、「将来のために使うお金」だよ。もう少し具体的に見てみよう。

・現在のために使うお金＝収益的収支

みんなが使った汚水を下水道処理施設で処理するのは、今、生活している人々のためにすることだね。そう考えると、維持管理費や1年間施設を使った事による資産価値の減少分である減価償却費、それから下水道処理の対価である使用料収入などは現在のために使うお金＝収益的収支というイメージになるよね。

・将来のために使うお金＝資本的収支

ここで言う「将来」とは、1、2年後の「すぐ先」から、みんなの子供・孫の世代の「ずっと先」までを指しているんだ。この将来のために使うお金とは、例えば下水道管の布設や処理場施設の建設のことだよ。一度整備された施設は、その後何十年と使用されることから、これらの整備費用やその財源となるために借りた企業債収入やその償還金、国からの補助金が将来のために使うお金＝資本的収支というイメージになるよね。

Q2 補てん財源ってなぁ〜に？

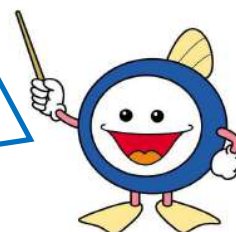
補てん財源とは、資本的収支予算において、収入額が支出額に対して不足することとなった場合に、その不足分を補う財源のことなんだよ。



えっ!? お金が足りない予算なんてどういうこと？

公営企業の予算制度は、収益的収支と資本的収支の2本立てなのは先程説明したよね。そのうち、資本的収支予算は、建設改良費や企業債の償還が主な支出であり、支出が収入を上回ることが多くあるんだ。しかし、実際に予算を執行する時に資金が不足しないように、予算を策定する段階にその不足額について、資金的裏付けがあることを説明する必要があるんだ。

この財源は、収益的収支予算のうち、現金の支出を伴っていない減価償却費や固定資産除却費などの支出によって内部に残る資金（内部留保資金）や純利益を原資としている減債積立金や建設改良積立金など、資本的支出に充当するための積立金などがあるよ。



減価償却費や固定資産除却費などの支出は、資産価値の減少分等を費用として計上しているもので、実際にお金は支出していないから、建設改良費や企業債の償還の財源として使うことができるってことだね。

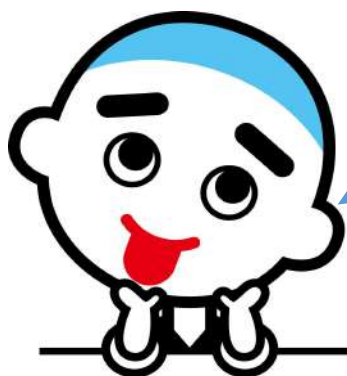
4. 下水道事業の経営成績はどんなの？

～黒字なの？ 赤字なの？～

企業が1年間にどれだけ利益を上げたか明らかにするものとして「損益計算書」があります。これを私たちが見ている令和7年度の下水道事業会計決算に当てはめると、四日市市下水道事業会計における令和7年度の経営成績を表すものになります。

【損益計算書（税抜）】

1. 営業収益 (A)	9,752,387,492
下水道使用料	4,746,961,097
他会計負担金（一般会計繰入金）	4,680,289,000
その他	325,137,395
2. 営業費用 (B)	12,963,378,910
維持管理費	4,040,111,637
減価償却費・資産減耗費	8,923,267,273
営業利益 (C) ((A) - (B))	△ 3,210,991,418
3. 営業外収益 (D)	5,456,703,396
他会計補助金（一般会計繰入金）	1,200,808,000
長期前受金戻入	4,169,763,338
その他	86,132,058
4. 営業外費用 (E)	1,372,730,029
支払利息（企業債利息）	899,618,913
雑支出	473,111,116
その他	0
経常利益 (F) ((C) + (D) - (E))	872,981,949
5. 特別利益 (G)	78,731
6. 特別損失 (H)	2,636,080
純利益 (I) ((F) + (G) - (H))	870,424,600



令和7年度の下水道事業はおよそ9億円の黒字だったんだね。

でも、この9億円の黒字はどう使われるのかなあ？

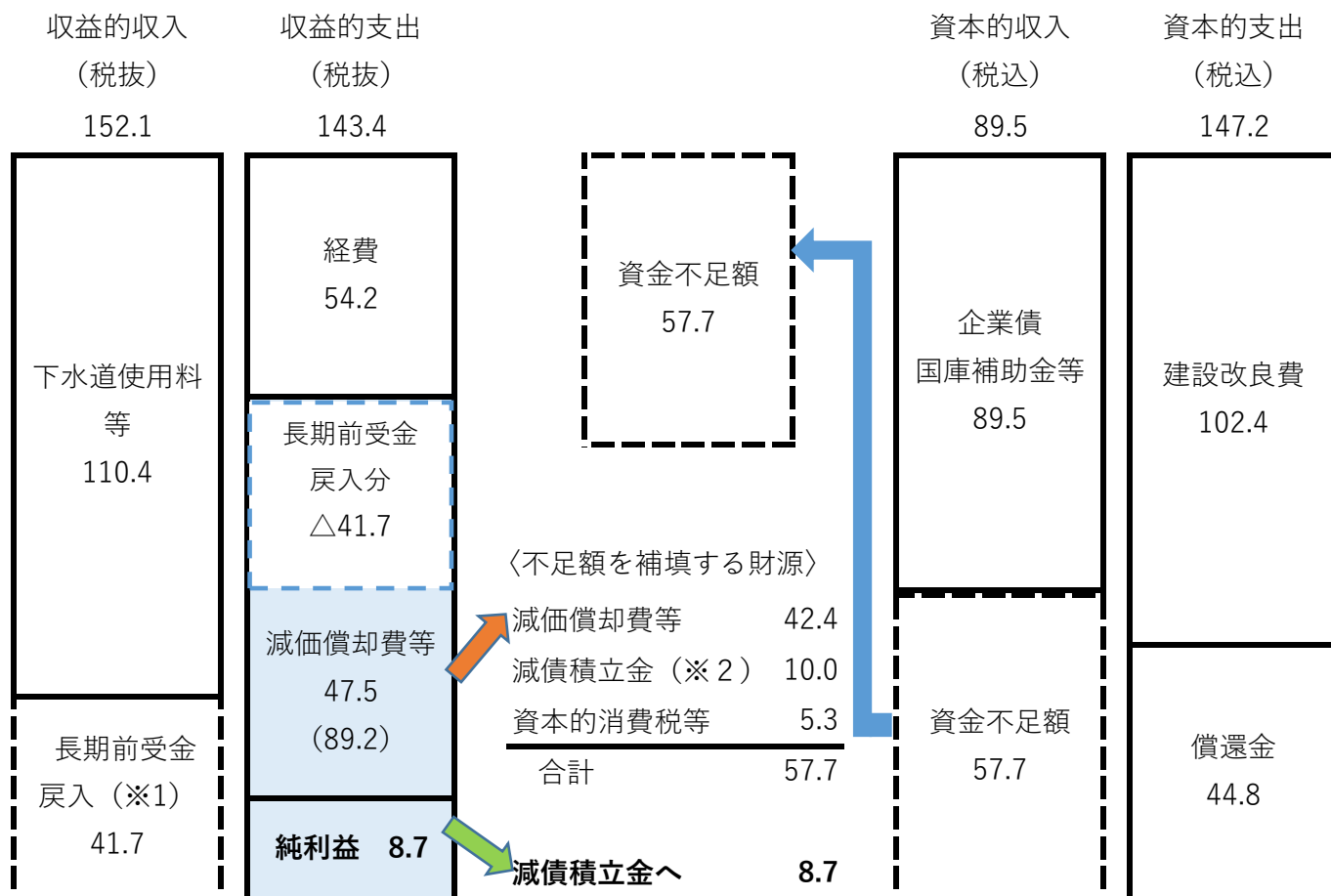
この9億円の黒字がどのように使われるのか、見てみよう。



5. 利益はどのように使われるの？

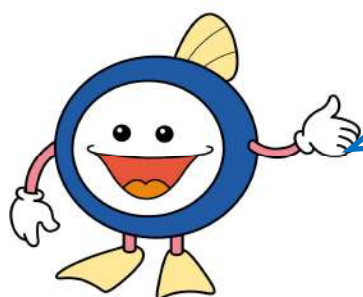
企業経営で得た黒字（利益）が、どのように使われているのか。見てみましょう。

（単位：億円）



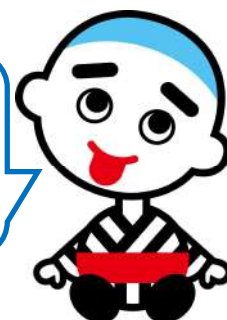
（※1） 長期前受金戻入は現金収入のない収益のため、減価償却費から控除して補てん財源を算出します。

（※2） 減債積立金は毎年度事業で生じた利益を、条例又は議決でもって翌年度の企業債償還の財源として積立てたもの。

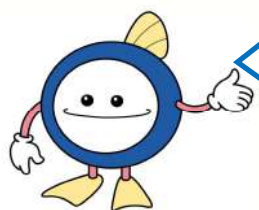


企業経営（収益的収支）で得た利益は、借入金（企業債）の返済の財源や将来への建設投資（資本的収支）の資金不足を補填する財源として使われているんだ。

企業活動で得た黒字（利益）は、新たな施設や設備などの建設投資や借入金の返済など、全て下水道事業に使われるということだね。

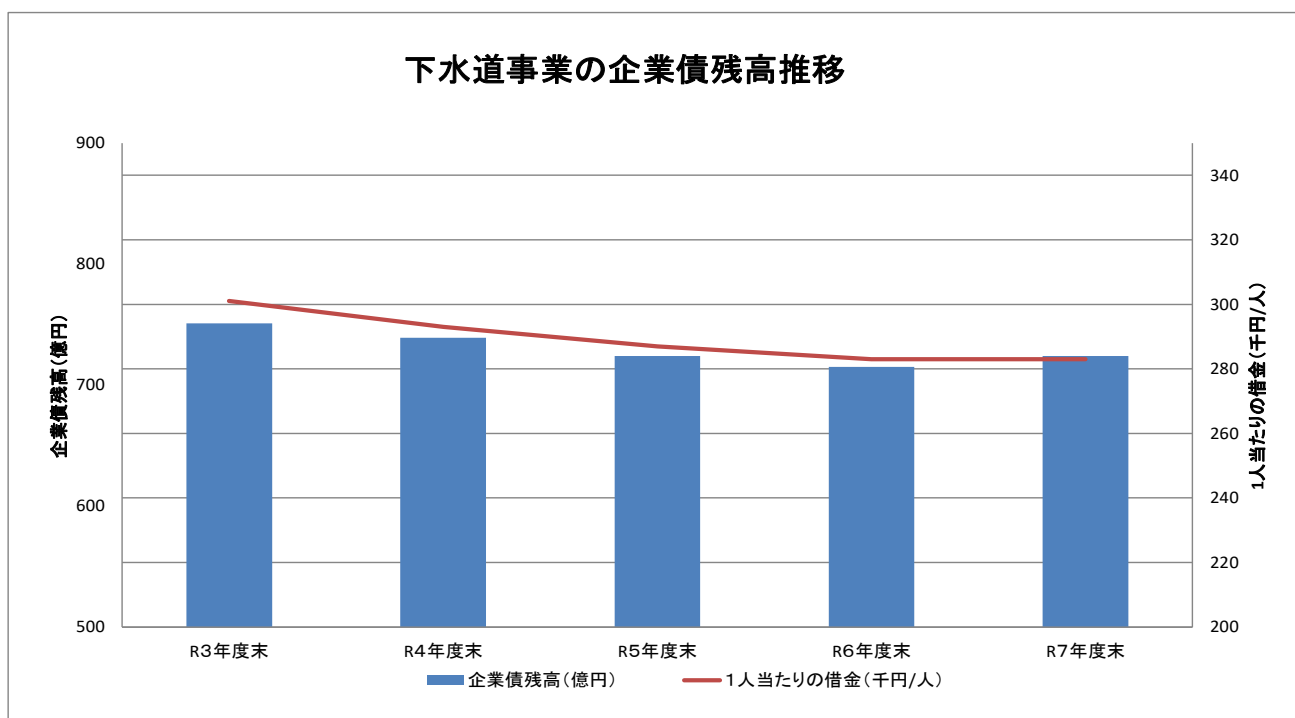


6. 借金はどれくらいあるの？



先ほど、「3. 家計簿にたとえると」(P4.5)で、「企業債の償還＝ローンの返済」と紹介したんだけど、これは令和7年度に返済した金額なんだ。

ここでは、1年間に返済する金額ではなく、「企業債の残高＝ローン残高」、つまり借金がいくら残っているかを見てみよう。



	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末	R7年度末
企業債残 (億円)	751	739	724	715	724
1人当たりの借金(千円/人)	301	293	287	283	283



借金の残高は年々減少しているね。5年前の令和3年度末に比べて約27億円も減少してるよ。

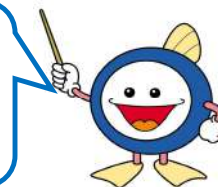
市民1人当たりの借金は、令和7年度末の下水道処理区内人口が255,572人で企業債(借金)の残高が約724億円だから、1人当たりの借金は約28万3千円になるね。

5年前の令和3年度末の1人当たりの借金が約30万1千円だから、5年前より約1万8千円減っているね。

7. 下水道事業の財産はどれくらいあるの？

企業の一定の時点における当該企業が保有する財産を表すものとして「貸借対照表」があります。これを令和7年度四日市市下水道事業決算に当てはめると、「令和8年3月31日時点の四日市市の下水道事業における財政状況を表すもの」になります。

貸借対照表は、「資産」「負債」「資本」の3つで内容を示しているよ。
「資産－負債＝資本」という関係性から「資産＝負債＋資本」という表が作られるよ。



【貸借対照表（税抜）】

（単位：千円）

資産の部			
名 称	令和7年度末残高	令和6年度末残高	増 減
有形固定資産	218,582,172	217,485,585	1,096,587
無形固定資産	6,232,405	6,461,778	△ 229,373
投資	4,014	4,014	0
固定資産合計（①）	224,818,591	223,951,377	867,214
現金預金	7,996,288	6,133,378	1,862,910
未収金	1,007,814	849,187	158,627
前払金	359,020	694,520	△ 335,500
流動資産合計（②）	9,363,122	7,677,085	1,686,037
資 産 合 計（①＋②）	234,181,713	231,628,462	2,553,251

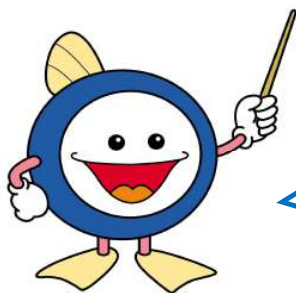
負債の部			
名 称	令和7年度末残高	令和6年度末残高	増 減
企業債	67,891,787	67,051,320	840,467
引当金	1,242,314	1,248,530	△ 6,216
固定負債合計（③）	69,134,101	68,299,850	834,251
企業債	4,548,134	4,482,396	65,738
未払金	4,673,874	3,666,223	1,007,651
引当金	48,431	44,987	3,444
その他流動負債	54,272	46,179	8,093
流動負債合計（④）	9,324,711	8,239,785	1,084,926
長期前受金	86,637,969	86,934,093	△ 296,124
繰延収益合計（⑤）	86,637,969	86,934,093	△ 296,124
負 債 合 計（③＋④＋⑤）	165,096,781	163,473,728	1,623,053

資本の部			
名 称	令和7年度末残高	令和6年度末残高	増 減
自己資本金	64,927,284	63,802,072	1,125,212
資本金合計 (⑥)	64,927,284	63,802,072	1,125,212
資本剰余金	2,287,545	2,227,772	59,773
利益剰余金	1,870,103	2,124,890	△ 254,787
剰余金合計 (⑦)	4,157,648	4,352,662	△ 195,014
資 本 合 計 (⑥+⑦)	69,084,932	68,154,734	930,198
負債資本合計 (③+④+⑤+⑥+⑦)	234,181,713	231,628,462	2,553,251



貸借対照表は、「何にお金を投資したのか（資産）」、「どうやってお金を集めたのか（負債）（資本）」を表しているんだよ。

令和7年度の下水道事業は、前年度に比べて財産（資産）が25.5億円増加していて、負債も約16.2億円も増加しているね。これはどういうことなの？



まず、「資産」の増加なんだけれど、施設整備などによる固定資産の増加（約8.7億円）に加え、現金預金などの流動資産が増加（約16.9億円）したことが主な要因だよ。一方、「負債」は企業の借金等の将来返済する必要があるマイナスの企業財産を意味しているんだけど、事業資金の調達などで約16.2億円増加したよ。ただ、資産の増加が負債の増加を大きく上回っているため、差額である純資産が約9.3億円増加していて、財政状態は健全であるといえるんだ。

なかなか貸借対照表の数字をみても、わかりづらいね。指標を使って財政状況を見てみよう。



「引当金」ってなに？

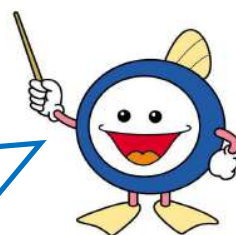
ねえ～、スイスイ。さっきのページの負債の部に「引当金」って言葉があったけど、これはなに？



Q1 引当金ってなに？

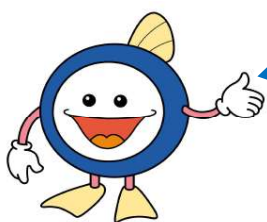
「引当金」とは、将来発生する可能性が高い支出に備えて、あらかじめ計上しておくお金のことだよ。

「何のための支出に備えるか」ということによって、いくつか種類があるよ。また、引当金を計上するには次のような要件があるんだ。



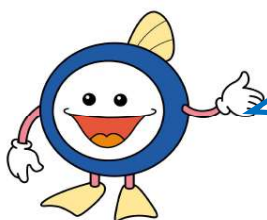
引当金の要件

- ① 将来の特定の費用または損失であること。
- ② 発生が当期以前の事象に起因すること。
- ③ 発生の可能性が高いこと。
- ④ 金額を合理的に見積もることができること。



実際に確定した損失や費用ではないけれど、来年以降に発生した場合、その原因は当期にあります。そのため、将来の支出を見越して見積もった金額を、引当金として計上するんだ。

どんな種類の引当金があるの？



「何のための支出に」どんな「引当金」があるか次のページで見てみよう。

Q2 どんな種類の引当金があるの？

四日市市の下水道事業では、目的に応じて4つの引当金があるんだ。順に見てみよう。



① 退職給付引当金

退職給付引当金は、将来支給される退職給付のうち、その年度に負担すべき額をその年度の費用として引当金に繰り入れ、その残高を負債に計上するものです。

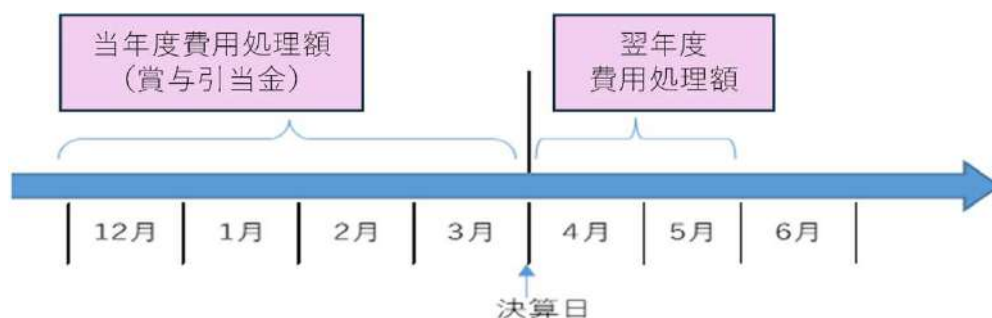
退職給付とは・・・

一定の期間にわたり労働を提供したという事由に基づいて、退職時に従業員に支給される給付金

② 賞与引当金

賞与引当金は、翌年度に支払われる賞与の支給対象期間のうち、当年度の期間が含まれている場合には、その期間相当分を負債に計上するものです。

《賞与引当金のイメージ》



③ 修繕引当金、特別修繕引当金

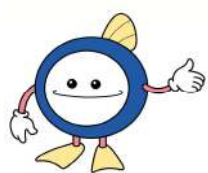
修繕引当金は、災害等による工事の遅延等、何らかの理由により当年度すべきであった修繕が実施できず、翌年度になった場合に、本来当年度に負担すべきであった費用を計上するために、翌年度に実施する修繕費を見積もり負債に計上するものです。

また、特別修繕引当金は、数年度ごとに定期的に行われる特別な大規模修繕に備えて平準化した費用負担分を負債に計上するものです。

④ 貸倒引当金

貸倒引当金は、未収下水道使用料などの未収金などの金銭債権の将来の貸倒れに備えて設定する引当金のことで、取立不能の見込額を費用として資産に計上するものです。

8. 下水道事業の財政状態はどんなの？



企業の財政状態（経営状態）を分析するため、いくつかの指標を使って、四日市市の下水道事業の財政状態を見てみよう。

① 自己資本構成比率・・・経営の健全性、安全性の指標

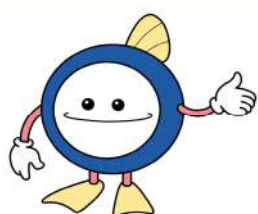
財政状態の長期的な安全性の見方として、その事業の資本構成がどのようになっているかが重要です。

自己資本構成比率は総資本（負債と資本）に占める資本金等の割合で高ければ高いほど、企業の財政状態は良好であると判断できます。

$$\begin{aligned}\text{自己資本構成比率} &= \frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100 \\ &= \frac{64,927,284,082 + 4,157,647,808 + 86,637,968,685}{234,181,712,548} \times 100 = 66.5\end{aligned}$$

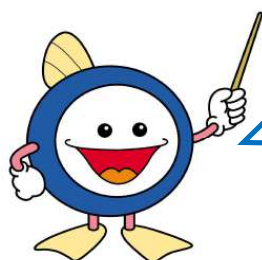
四日市市 (令和7年度決算値)	四日市市 (令和6年度決算値)	同格都市平均 (令和6年度決算値)
66.5%	67.0%	65.5%

※同格都市平均：行政区域人口 30万人、処理区域人口 20万人以上の47都市の平均値（以下同じ）



健全性は前年度より少し悪化したよ。一方、同格都市平均に比べると少し良かったみたいだね。

高ければ高いほど良いみたいだけど、60%台って低い気がするんだけど・・・。



下水道事業が施設の建設投資の財源の多くを企業債によって調達していることから、自己資本構成比率は低くなる傾向にあるんだ。

より一層の事業経営の安定化を図るためには、経営努力による資本金の造成が必要だね。

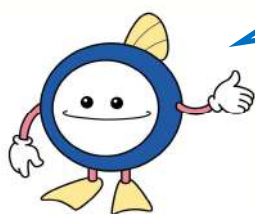
② 流動比率・・・負債に対する支払能力の指標

財政状態の短期的な安全性の見方として、短期債務の支払い能力を見ることが重要です。

流動比率は1年以内に支払い義務が生じる負債（流動負債）に対して、1年以内に現金化することが可能な資産（流動資産）をどれだけ保有しているかを示す指標で、流動比率が100%以上あれば、短期債務返済能力は十分にあるものと判断できます。

$$\begin{aligned}\text{流動比率} &= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100 \\ &= \frac{9,363,121,581}{9,324,710,699} \times 100 = 100.4\end{aligned}$$

四日市市 (令和7年度決算値)	四日市市 (令和6年度決算値)	同格都市平均 (令和6年度決算値)
100.4%	93.2%	95.2%



短期支払能力についても、前年度より良化したよ。
同格都市と比べて、支払能力は少し良いみたい。

令和7年度は100%を超えたんだね！



そうだね。流動比率は100%以上あれば、1年以内に支払うお金（流動負債）を返済する能力が十分にあると判断されるんだ。現金預金などの流動負債が増えたことで、短期的な支払い能力（安全性）がしっかり高まったと言えるね。

③ 固定比率・・・固定資産にかかる費用の支払能力と安全性の指標

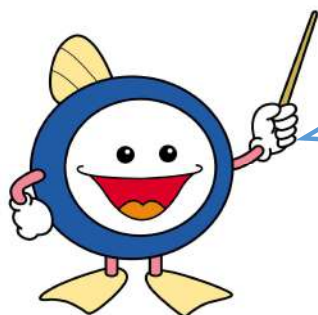
建物や機械は減価償却で毎年費用化しなければなりません。また、維持するための修理費用や買い替えの費用も掛かります。そのため、固定資産にかかる費用を長期的に支払える能力があるか見極める必要があります。

固定比率は、資本に対する固定資産の割合を言い、固定資産がどの程度、自己資本で賄われているかを見る指標です。固定比率が低ければ低いほど安全性が高く、100%以下に抑えると良好であると判断できます。

$$\begin{aligned}\text{固定比率} &= \frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{繰延収益}} \times 100 \\ &= \frac{224,818,590,967}{64,927,284,082 + 4,157,647,808 + 86,637,968,685} \times 100 = 144.4\end{aligned}$$

四日市市 (令和7年度決算値)	四日市市 (令和6年度決算値)	同格都市平均 (令和6年度決算値)
144.4%	144.4%	146.6%

前年度と横ばいで、同格都市平均に比べても少し良いけど、基準とされている100%は大きく超えているね。なんでなんだろう？



公営企業は莫大な設備投資の資金の多くを企業債に依存していることから必然的に固定比率は高くなってしまった。そのため、分母に固定負債を加えた「固定資産対長期資本比率」という長期の資金の調達で、固定資産を賄っているかを表す指標があり、合わせて安全性を判断するよ。

(参考) 固定資産対長期資本比率

四日市市 (令和7年度決算値)	四日市市 (令和6年度決算値)	同格都市平均 (令和6年度決算値)
100.0%	100.3%	100.2%

9. 他都市と比べてどうなの？

先ほど、財政状態を分析するため、いくつかの指標を使って経営の健全性や安全性などを見てみました。ここでは色々な指標を使いながら多くの視点から他の同格都市と比べてみましょう。

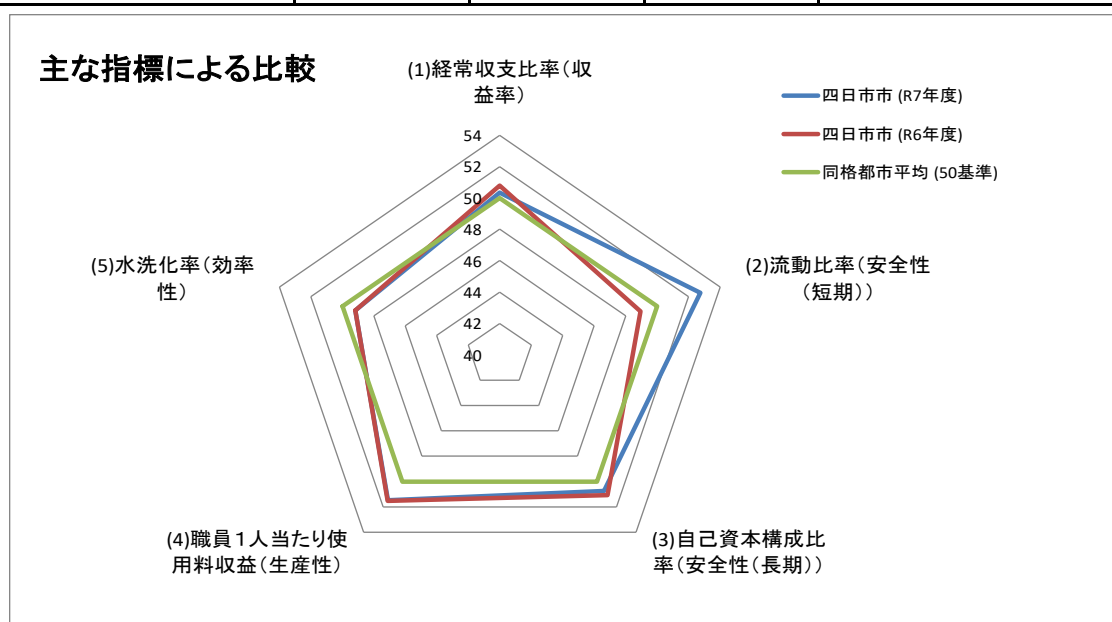
なお、同格都市平均とは、行政区域内人口が30万人以上で、処理区域内人口が20万人以上の47都市の平均値としています。

視点	項目	四日市市		同格都市平均	説明
		R7年度	R6年度	R6年度	
収益性	経常収支比率（％）★	106.09	107.04	105.36	経常支出が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標で高いほど良い。
	総収支比率（％）	106.07	107.04	106.54	総費用が総収益でどの程度賄われているかを示す指標で100％を割ると赤字となる。

生産性	職員1人当たり営業収益 （千円／人）	193,734	192,438	116,234	損益勘定職員（維持管理部門の職員）1人当たりの営業収益を示す指標で高いほど良い。
	職員1人当たり使用料収益 （千円／人）★	94,939	95,020	92,206	損益勘定職員1人当たりの使用料収入を示す指標で高いほど良い。
	職員1人当たり有収水量 （m ³ ／人）	507,141	507,040	665,415	損益勘定職員1人当たりの有収水を示す指標で高いほど良い。

安全性	流動比率（％）★	100.41	93.17	95.16	短期債務に対する支払能力の指標で100％以上あるのが望ましい。
	自己資本構成比率（％）★	66.50	66.96	65.54	長期的な安全性を見る指標で高いほど、財政状態は良い。
	固定比率（％）	144.37	144.40	146.63	固定資産にかかる費用の支払能力と安全性の指標で100％以下が望ましい。

視点	項 目	四日市市		同格都市 平 均	説 明
		R 7 年度	R 6 年度	R 6 年度	
効 率 性	水洗化率（％）★	94.27	94.28	95.84	下水道を使うことができる人口のうち、実際に使用している人口の割合を示す指標で高いほど良い。
	経費回収率（％）	85.59	85.23	99.15	汚水処理費用が下水道使用料でどの程度賄われているかを示す指標で、100％以上あることが望ましい。

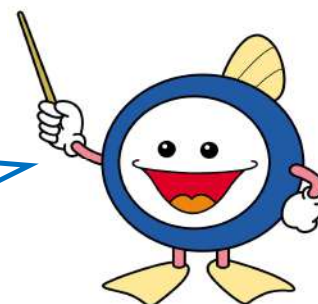


※各の視点の主な指標（★印）について同格都市平均を50.00として比較



いろいろな指標を使って比べることで、他都市より良好なところや劣っているところが分かりやすいね。

四日市市特有の状況を踏まえながら、問題点を見つけて今後の経営に生かす必要があるね。



（参考）同格都市 47 団体

北海道旭川市、福島県郡山市、栃木県宇都宮市、群馬県前橋市、群馬県高崎市、埼玉県川越市、埼玉県川口市、埼玉県所沢市、埼玉県越谷市、千葉県市川市、千葉県船橋市、千葉県松戸市、千葉県柏市、東京都八王子市、東京都町田市、神奈川県横須賀市、神奈川県藤沢市、富山県富山市、石川県金沢市、長野県長野市、岐阜県岐阜市、愛知県豊橋市、愛知県岡崎市、愛知県一宮市、愛知県春日井市、愛知県豊田市、滋賀県大津市、大阪府豊中市、大阪府吹田市、大阪府高槻市、大阪府枚方市、大阪府東大阪市、兵庫県姫路市、兵庫県尼崎市、兵庫県明石市、兵庫県西宮市、奈良県奈良市、岡山県倉敷市、広島県福山市、香川県高松市、愛媛県松山市、高知県高知市、長崎県長崎市、大分県大分市、宮崎県宮崎市、鹿児島県鹿児島市、沖縄県那覇市

付録① 【図解】損益計算書を読み解こう！

損益計算書とは・・・

企業の1年間の経営成績を明らかにするもので、その期間中に発生した全ての収入・支出及び最終的な利益（損失）を記載するものです。

損益計算書でわかること・・・

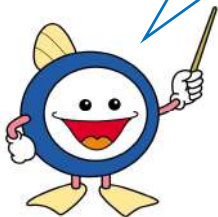
企業が「何にお金を使って」「どれだけ売上が上がり」「どれくらい儲かったのか」を読み取ることができます。また、儲かった利益は本業と本業以外のどちらから出ているかということもわかります。

また、損益計算書を分析することにより将来の経営方針を立てます。

ポイント

損益は、次の計算方法で出すんだ。

「損益」＝「収益」－「費用」
プラスなら利益が出ている！



① 営業利益（営業損失）

本業による経営成績が分かる！

下水道事業の本業は、汚水をきれいにする
ことと、雨水から皆さんの命や財産を守る
ことです。そのための費用や皆さんからいた
っている下水道使用料、雨水排水事業に対
する一般会計からの繰入金等の、主たる営業活
動の経営成績が示されています。

② 経常利益（経常損失）

経常活動による経営成績が分かる！

本業の活動に関する損益に加えて、汚水事
業に対する一般会計からの繰入金や過去に借
り入れた企業債から発生する利息等の本業で
はないものの経常的に発生する資金調達に関
する経営成績が示されます。

③ 当年度純利益（当年度純損失）

最終的な下水道事業の経営成績が分かる！

1年間の全ての収入・支出を記載した経営
成績の結果が示されます。

令和7年度四日市市下水道事業損益計算書

（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）

（単位 円）

1 営業収益

(1) 下水道使用料	4,746,961,097		
(2) 負担金	4,680,289,000		
(3) 受託事業収益	65,669,875		
(4) その他営業収益	259,467,520	9,752,387,492	(7)

2 営業費用

(1) 管渠費	827,582,844		
(2) ポンプ場費	1,013,904,698		
(3) 処理場費	761,805,519		
(4) 都市下水道路費	139,732,686		
(5) 業務費	924,953,451		
(6) 総係費	244,578,606		
(7) 普及促進費	63,738,484		
(8) 受託費	63,815,349		
(9) 減価償却費	8,827,647,920		
(10) 資産減耗費	95,619,353	12,963,378,910	(1)

営業損失

3,210,991,418 (7) = (7) - (1)

3 営業外収益

(1) 受取利息及び配当金	587,671		
(2) 他会計補助金	1,200,808,000		
(3) 国庫補助金	5,500,000		
(4) 長期前受金戻入	4,169,763,338		
(5) 貸倒引当金戻入額	22,468,387		
(6) 雑収益	57,576,000	5,456,703,396	(1)

4 営業外費用

(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	899,618,913		
(2) 雑支出	473,111,116	1,372,730,029	(1)

経常利益

872,981,949 (1) = (1) - (1)

5 特別利益

(1) 過年度損益修正益	33,831		
(2) その他特別利益	44,900	78,731	(1)

6 特別損失

(1) 過年度損益修正損	2,636,080	2,636,080	(1)
--------------	-----------	-----------	-----

当年度純利益

870,424,600 (1) = (1) + (1)

その他未処分利益剰余金

999,678,348

当年度未処分利益剰余金

1,870,102,948

付録② 【図解】貸借対照表を読み解こう！

貸借対照表とは・・・

企業の一定の時点における当該企業が保有する全ての資産、負債及び資本を表示する報告書です。

貸借対照表でわかること・・・

企業が「どれだけ財産を保有し、どれだけ債務を負っているか」を年度末（決算日）という決まったタイミングで財政状態を示すことにより、財政上の安全性を確認することができます。

資産は、1年間のうちに現金化できるものを「流動資産」、できないものを「固定資産」として区分されています。

ポイント

① 自己資本構成比率・・・長期的な安全性

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100 = 66.50\%$$

その事業の資本構成がどのようになっているかを表します。

自己資本構成比率は総資本（負債と資本）に占める資本金等の割合で高ければ高いほど、企業の財政状態は良好であると判断できます。

② 流動比率・・・短期的な安全性

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100 = 100.41\%$$

すぐに支払わなければならないお金（短期債務）に対する支払い能力を表します。

流動比率が100%以上あれば、短期債務返済能力は十分にあるものと判断できます。

令和7年度四日市市下水道事業貸借対照表

（令和8年3月31日）

【資産の部】		金額（円）	【負債の部】		金額（円）
固	定 資 産	224,818,590,967	固	定 負 債	69,134,101,274
	有 形 固 定 資 産	218,582,171,615		企 業 債	67,891,786,684
	土 地	5,679,848,032		引 当 金	1,242,314,590
	建 物	7,197,714,568		退 職 給 費 引 当 金	590,838,377
	構 築 物	180,072,600,203		修 繕 引 当 金	651,476,213
	機 械 及 び 装 置	23,082,422,848	流	動 負 債	9,324,710,699
	車 両 運 搬 具	9,076,556		企 業 債	4,548,133,525
	工 具 器 具 及 び 備 品	37,399,776		未 払 金	4,673,873,872
	建 設 仮 勘 定	2,503,109,632		引 当 金	48,431,000
	無 形 固 定 資 産	6,232,405,352		賞 与 引 当 金	48,431,000
	施 設 利 用 券	6,227,421,752		そ の 他 流 動 負 債	54,272,302
	電 話 加 入 権	4,983,600	繰	延 収 益	86,637,968,685
	投 資 そ の 他 資 産	4,014,000		長 期 前 受 金	184,823,010,702
	そ の 他 の 投 資	4,014,000		収 益 化 累 計 額	△ 98,185,042,017
流	動 資 産	9,363,121,581	負	債 合 計	165,096,780,658
	現 金 預 金	7,996,287,667	【資本の部】		金額（円）
	未 収 金	1,017,813,914	資	本 金	64,927,284,082
	貸 倒 引 当 金	△ 10,000,000	剰	余 金	4,157,647,808
	前 払 金	359,020,000		資 本 剰 余 金	2,287,544,860
				利 益 剰 余 金	1,870,102,948
			資	本 合 計	69,084,931,890
資	産 合 計	234,181,712,548	負	債 資 本 合 計	234,181,712,548

負債は、企業債（借金）に代表されるように、他者に返済しなければならない（支払義務がある）お金です。

繰延収益は、資産の取得（下水道施設の建設）の際にもらった補助金や負担金などの返す必要のないお金です。

資本は、資本金や事業で獲得した利益などの返す必要のないお金です。

『お金の使い道』！！

集めたお金が、「どのような状態」で「どれだけ」あるか分かる。

『お金の集め方』！！

企業が資産を獲得するためのお金を、「どのように」集めたか分かる。

付録③ 【図解】キャッシュ・フロー計算書を読み解こう！

キャッシュ・フロー計算書とは・・・

キャッシュ・フローとは、企業における「キャッシュ（現金）のフロー（流れ）」を表しています。簡単に言うと企業が当該決算期にどのように現金を生み出し、それをどのように使って、どれだけの残高があったのかを示した表です。

キャッシュ・フロー計算書でわかること・・・

企業として特定の期間における現金の流れがわかります。資産と負債の状況を示す貸借対照表や、利益を示す損益計算書では把握しづらい、1年間の現金の動きをその理由とともに知ることができます。

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

本業で得たお金・失ったお金

①営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）は増加しているか？

「企業が本業でどれだけお金を得られたか」を示しており、この数値が大きければ大きいほど、本業で「稼ぐ力」がある企業と言えます。

★営業CFがプラスであることが良い企業の第一条件★

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資で得たお金・失ったお金

②投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）はどれくらいマイナスか？

「企業が将来のために、どれだけお金を投資しているか」を示しており、企業は発展し続けるために設備投資を実施することが重要であることから、投資CFはマイナスであることが望ましい。従ってなぜプラスあるいはマイナスになったのか、その原因を分析することが重要です。

財務活動によるキャッシュ・フロー

借入で得たお金・返済で失ったお金

③財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）はプラスか？マイナスか？

企業がどれだけお金を借り、どれだけ返済したかを示しており、基本的にはマイナスの方が望ましいですが、会社発展のための資金調達の場合もあることから、営業CF・投資CFと比較しつつ、財務CFを読むことが大切です。

令和7年度四日市市下水道事業キャッシュ・フロー計算書

（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）

（単位 円）

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(1) 当年度純利益	870,424,600
(2) 減価償却費	8,827,647,920
(3) 固定資産除却費	95,619,353
(4) 引当金の増減額（△は減少）	△ 20,327,487
(5) 長期前受金戻入額	△ 4,169,763,338
(6) 受取利息	△ 587,671
(7) 支払利息	899,618,913
(8) 固定資産売却損益（△は益）	0
(9) 未収金の増減額（△は増加）	△ 106,333,196
(10) 未払金の増減額（△は減少）	△ 20,605,254
(11) 預り金の増減額（△は減少）	18,781
(12) 保証金の増減額（△は減少）	8,068,900

小 計 6,383,781,521

(1) 利息の受取額	587,671
(2) 利息の支払額	△ 899,618,913

営業活動によるキャッシュ・フロー 5,484,750,279

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

(1) 固定資産取得・建設改良事業実施額	△ 9,403,243,039
(2) 上記(1)実施による収入	3,546,173,939
(3) 固定資産の売却による収入	0
(4) 引当金の増減額（△は減少）	1,556,000
(5) 未収金の増減額（△は増加）	△ 36,293,782
(6) 前払金の増減額（△は増加）	335,500,000
(7) 未払金の増減額（△は減少）	1,028,256,789
(8) 預り金の増減額（△は減少）	5,287

投資活動によるキャッシュ・フロー △ 4,528,044,806

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

(1) 企業債の発行	5,388,600,000
(2) 企業債の償還	△ 4,482,395,675

財務活動によるキャッシュ・フロー 906,204,325

4 現金預金及び現金等同等物の増減額 1,862,909,798

5 現金預金及び現金等同等物の期首残高 6,133,377,869

6 現金預金及び現金等同等物の期末残高 7,996,287,667

営業CFが
プラス

投資CF（設備投資の実施）、財務CF（借入金の返済）へお金を向けることができる。

営業CFが
マイナス

キャッシュ（資金）不足となり、投資設備や借入金の返済のため、更に借入金に依存傾向になる。



営業CFのマイナスが続くと、資金繰りに行き詰まり、倒産する可能性も

投資CFが
プラス

資金繰りが苦しく、資産を売却して資金を調達している可能性もあり、経営状態の調査が必要。

投資CFが
マイナス

成長している企業は、積極的に設備投資を行うので投資CFはマイナスになる。



投資CFについては、なぜプラスあるいはマイナスになったのか。原因分析が重要

財務CFが
プラス

原則は、良い状況とは言えないが、積極的な投資による場合、必ずしも悪いとは言えない。

財務CFが
マイナス

一般的には良い状況であるが、営業CFを投資CFに回していない場合などは注意が必要。



プラスであっても、マイナスであっても資金使途や流れをみて判断が必要